

# 青少年 とちぎ

令和4年3月10日

第220号

## CONTENTS

- 1 新任理事長ご挨拶
- 2 青少年育成指導員委嘱状交付式、全体研修会
- 3 令和3年度親子学び合い事業
- 4 少年の主張県大会
- 6 県民のつどい
- 7 令和3年度青少年育成県民会議表彰
- 9 2021家庭の日絵日記コンテスト
- 11 ご寄附いただきました、賛助会員募集
- 12 賛助会員(団体)のご紹介



栃木県青少年育成県民会議  
シンボルマーク

【発行】栃木県青少年育成県民会議(公財)とちぎ未来づくり財団青少年育成課  
宇都宮市本町1-8 TEL028-643-1005 FAX028-650-5284 URL: <http://www.tmf.or.jp> E-mail: [ikusei@tmf.or.jp](mailto:ikusei@tmf.or.jp)

## ごあいさつ



栃木県青少年育成県民会議  
(公財)とちぎ未来づくり財団  
理事長 森澤 隆

令和3年4月に、とちぎ未来づくり財団及び栃木県青少年育成県民会議の理事長に就任いたしました森澤 隆でございます。皆様方には、日頃から青少年育成事業の推進に当たり、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、とちぎの次代を担う子どもや青少年が、夢と希望を持って心豊かでたくましく成長することは、いつの時代にあっても県民すべての願いです。

しかし、近年、人口減少や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化等により、家庭内や地域において世代を超えて互いに支え合い助け合うことが困難となり、ヤングケアラー、ひきこもり、貧困など、様々な問題が顕在化して参りました。また、この2年余りの間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が何度か繰返され、不要不急の外出の自粛、飲食店への時短営業等の要請、学校行事や各種イベントの中止、オンライン授業やテレワークの普及等により、人々がともに集い交流する機会が極端に減少しました。これにより、人々のストレスは増大し、やり場の

ない不安、苛立ちが理不尽な形で社会に噴出するとともに、孤立・孤独が改めて大きな問題として浮上してきました。そして、心安らかに過ごすことができる「居場所」をどこにも見出すことができない子どもや青少年が増加し、自殺者数も増加するという極めて深刻な事態に至っております。

このような時代だからこそ、家族、学校、職場、地域等が、それぞれの特性を生かしながら連携を図り、子どもや青少年の成長を社会全体で見守り支援していくことが重要であります。

県民会議は、青少年健全育成県民運動の推進母体として、県や各市町の青少年育成市町村民会議をはじめ青少年育成に携わる多くの団体や、地域のリーダーとして御活躍いただいております県青少年育成指導員の皆様と緊密に連携を図るとともに、賛助会員をはじめとする多くの皆様の暖かい御支援をいただきながら、県民運動の普及に努め、「少年の主張発表大会」や「家庭の日絵日記コンテスト」、「心豊かな青少年を育む県民のつどい」の開催等、各種事業に取り組んで参りました。

また、ネット社会の急速な進展によるリスクに対応するため実施して参りました「親子学び合い事業～ネット時代の歩き方講習会～」につきましては、非常に多くの学校から御要望をいただいております。そのすべてにお応えできるよう、さらなる事業の充実強化に努めて参ります。

今後とも、心豊かでたくましいとちぎの青少年の育成を目指して、さらなる活動の推進に役職員一丸となって取り組んで参りますので、皆様方には、引き続き特段の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和3年度栃木県青少年育成指導員委嘱状交付式、青少年育成指導員会総会

令和3年4月16日(金)にとちぎ青少年センターにおいて約40名の方々にご参加いただき開催しました。

本年度は青少年育成指導員の改選時期にあたり、各市町から推薦された新任・再任の方々38名に森澤理事長から委嘱状を交付いたしました。また退任された7名の方に感謝状を贈呈いたしました。

交付式に続いて青少年育成指導員会の総会が行われ、昨年度の事業報告や今年度の予定についての提案等がありました。また、新しい役員が選出されました。



本年度委嘱されました青少年育成指導員の皆さんは以下のとおりです。

宇都宮市	関口 浩	市貝町	大畑 耕兵	佐野市	小林 康男
//	我妻 勝次	芳賀町	小池 正男	//	小代 久子
//	渡邊美津子	栃木市	青木 榮二	矢板市	岡本美智子
//	遠藤 廣	//	福富 正浩	さくら市	小口 勤
上三川町	菱沼 里美	//	瀬下 敏明	塩谷町	吉成 東
鹿沼市	石島 忠夫	小山市	田島登志雄	高根沢町	徐 東恵
//	竹澤 恵子	//	中村佐利子	大田原市	伊藤 三良
日光市	石川 茂	下野市	伊澤三華子	//	佐藤 富夫
//	齊藤 佳子	壬生町	戸崎 裕司	那須塩原市	柳場美枝子
真岡市	和田 紘一	野木町	野田 光典	//	橋本 秀晴
//	高松健比古	足利市	古川 克美	那須町	渡邊 政信
益子町	小倉 周次	//	横田久美子	那須烏山市	小堀 重光
茂木町	佐藤 亘			那珂川町	星 美津子

## 令和3年度青少年育成市町村民会議等全体研修会

2月15日(火)に令和3年度青少年育成市町村民会議等全体研修会を開催しました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染が再拡大したため、オンラインでの実施となりました。(一社)栃木県若年者支援機構子どもの貧困対策事業部長の荻野友香里氏が、「孤立しがちな子どもやその家族を支える」と題して講演を行いました。

荻野氏は、まず、今の子どもたちがおかれている状況について説明し、日本では相対的貧困といわれる通常的生活レベルからかけ離れている状態が問題との指摘がありました。さらに生活習慣や経験が通常レベルと大きく異なる「関係性の貧困」も深刻という話があり、コロナの影響がそれに拍車をかけているとのことでした。子どもは未来をつくる力であり、子どもの貧困対策は未来への投資であると話されました。次に荻野氏が現在取り組んでいる「キッズハウスいもどり」の活動について紹介し、子ども食堂のあり方や孤立する子どもとその家族の居場所づくりなど青少年育成に携わる者にとって示唆に富む話がありました。最後に、子どもたちへの支援を核とした地域連携の重要性を述べられ、今後もこうした活動を展開するために継続的な支援をお願いしたいとまとめられました。



## 親子学び合い事業～ネット時代の歩き方講習会～

県民会議では、平成20年度から「親子学び合い事業」を展開し、携帯電話の使い方やインターネット・スマートフォンとの付き合い方などについて、親子で考えてもらうきっかけを提供してきました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機に、国の「GIGAスクール」構想が実行に移され、児童生徒に対し1人1台端末の配備と高速大容量通信ネットワークが整備されたことで、子どもたちを取り巻くインターネット環境は大きく変わりました。今まで以上にインターネットが身近にあることが当たり前の社会になり、インターネットやスマートフォンとどのようにつきあっていくか一人ひとりの意識が問われる時代となりました。

「親子学び合い事業～ネット時代の歩き方講習会～」は、単にインターネットやスマートフォンの危険性を強調するだけのものではありません。インターネット・スマートフォンの危険性や利便性などの特性をしっかりと理解した上で、子どもたち一人ひとりが、インターネットやスマートフォンをどのように活用して、自らの人生に役立てていくかを主体的に考える、そのきっかけになることを目的としています。本年度も下表のとおり県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校合わせて74校で講習会を実施いたしました。

令和4年度の実施希望につきましては既に応募を締め切りましたが、市町村民会議が独自に同様の講習会を実施しているところや、実施している学校の様子を他校の教職員が見学できる場合もございます。詳しくは、学校の所在する市町の市町村民会議もしくは当県民会議までお問い合わせください。

### 令和3年度「親子学び合い事業～ネット時代の歩き方講習会～」実施校

実施日	学校名	実施日	学校名	実施日	学校名
4月23日(金)	真岡市立真岡中学校	7月 2日(金)	真岡市立久下田中学校	11月 4日(木)	鹿沼市立菊沢東小学校
5月 7日(金)	塩谷町立塩谷中学校	7月 2日(金)	足利市立坂西北小学校	11月 5日(金)	真岡市立山前小学校
5月28日(金)	小山市立小山第二小学校	7月 4日(日)	大田原市立湯津上中学校	11月10日(水)	芳賀町立芳賀南小学校
5月28日(金)	矢板市立泉小学校	7月 5日(月)	下野市立国分寺中学校	11月15日(月)	矢板市立乙畑小学校
6月 2日(水)	小山市立東城南小学校	7月 6日(火)	日光市立猪倉小学校	11月16日(火)	大田原市立西原小学校
6月 9日(水)	下野市立南河内第二中学校	7月 7日(水)	下野市立吉田西小学校	11月17日(水)	栃木市立大平南中学校
6月10日(木)	小山市立桑中学校	7月 7日(水)	佐野市立多田小学校	11月17日(水)	足利市立葉鹿小学校
6月11日(金)	栃木市立西方小学校	7月 7日(水)	大田原市立宇田川小学校	11月19日(金)	さくら市立氏家小学校
6月11日(金)	那須塩原市立大山小学校	7月 7日(水)	那珂川町立馬頭東小学校	11月22日(月)	那須塩原市立日新中学校
6月14日(月)	栃木市立皆川城東小学校	7月 7日(水)	下野市立石橋中学校	11月26日(金)	壬生町立安塚小学校
6月16日(水)	さくら市立熱田小学校	7月 7日(水)	佐野市立常盤小学校	11月26日(金)	宇都宮大学共同教育学部 附属特別支援学校
6月17日(木)	壬生町立南犬飼中学校	7月 7日(水)	日光市立小来川小中学校		
6月22日(火)	日光市立今市中学校	7月 9日(金)	那須塩原市立大原間小学校	12月 1日(水)	那須塩原市立関谷小学校
6月22日(火)	栃木県立益子特別支援学校	7月 9日(金)	栃木市立国府南小学校	12月 7日(火)	市貝町立市貝中学校
6月23日(水)	足利市立梁田小学校	7月13日(火)	上三川町立明治中学校	12月 8日(水)	鹿沼市立永野小学校
6月23日(水)	宇都宮市立豊郷中央小学校	7月14日(水)	那須町立東陽小学校	12月 8日(水)	佐野市立葛生中学校
6月25日(金)	益子町立益子中学校	7月14日(水)	那珂川町立小川中学校	12月 9日(木)	鹿沼市立東中学校
6月25日(金)	さくら市立喜連川中学校	7月15日(木)	那須烏山市立烏山中学校	12月20日(月)	宇都宮市立御幸が原小学校
6月26日(土)	壬生町立羽生田小学校	9月22日(水)	宇都宮市立築瀬小学校	12月22日(水)	塩谷町立船生小学校
6月29日(火)	下野市立南河内中学校	9月24日(金)	日光市立落合中学校	12月23日(木)	さくら市立上松山小学校
6月30日(水)	上三川町立明治小学校	10月 1日(金)	佐野市立界小学校	1月26日(水)	市貝町立市貝小学校
6月30日(水)	那須烏山市立南那須中学校	10月15日(金)	那須塩原市立黒磯小学校	1月26日(水)	那須町立那須中学校
6月30日(水)	真岡市立大内西小学校	10月20日(水)	鹿沼市立加園小学校	2月15日(火)	益子町立益子小学校
7月 1日(木)	小山市立絹義務教育学校	10月26日(火)	さくら市立南小学校	2月16日(水)	茂木町立須藤小学校
7月 2日(金)	足利市立北郷小学校	11月 2日(火)	高根沢町立東小学校	2月18日(金)	芳賀町立芳賀北小学校

## 第44回栃木県少年の主張発表県大会

栃木県少年の主張発表大会は、県内の中学生が日常生活で感じていることや考えていることを自分自身の言葉で発表することで、若者としての誇りや自主性を育てることを目的としています。また、中学生が自らの主張を広く社会に訴えることにより、同世代の少年たちには社会の一員としての自覚を高めるきっかけとなり、大人にとっては青少年の健全育成に対する理解と関心が深まることを目指しております。昭和58年11月28日に宇都宮市立旭中学校において「第1回栃木県少年の主張コンクール」として開催して以来、今回で44回目を迎えました。

本年度の大会には県内の中学生13,542名の応募があり、各地区大会には各校代表の162名が参加しました。県大会は9月18日(土)に栃木県総合文化センターサブホールで開催され、8つの地区大会で選ばれた代表16名が主張を発表しました。



今回は、グローバル化やデジタル技術の進展、SDGs、LGBTQなど、現代の社会が抱える様々な課題について、中学生らしい瑞々しい感性にあふれた主張が展開され、来場者だけでなくライブ配信を視聴した方にも思いが届くような発表でした。

賞	氏名	学校名・学年	題名
最優秀賞	石田 真愛	鹿沼市立東中学校3年	私の母
優秀賞 (発表順)	篠田 千夏	佐野市立城東中学校3年	分け合える家族に
	近澤 愛姫	茂木町立茂木中学校3年	「普通は・・・」
	中村 双葉	上三川町立上三川中学校3年	女性も活躍できる社会へ
奨励賞 (発表順)	岡本 愛花	那須塩原市立日新中学校3年	音楽から生まれる繋がり
	阿久津 翼	小山市立小山第二中学校3年	「人」と「人」を繋ぐ「命」
	前原 亜美	栃木市立大平南中学校3年	自分らしさ
	高月 光明	壬生町立壬生中学校3年	人生の歩き方
	カーンスマイヤ	鹿沼市立北犬飼中学校3年	違いを越えて
	村上智永里	さくら市立喜連川中学校3年	2030年の日本へ、私へ
	塩澤 昊季	芳賀町立芳賀中学校3年	話を聞いて
	川永 怜那	県立宇都宮東高等学校附属中学校3年	誰もが自分らしくいられる社会に
	益子 奈々	那須塩原市立黒磯北中学校3年	千羽鶴に思いをのせて
	林田 結衣	宇都宮市立瑞穂野中学校3年	「いただきます」と「ごちそうさま」
	高野 由奈	那須烏山市立烏山中学校3年	私が救える人々のために
田村 柑南	足利市立西中学校3年	レディース御膳は変わらない	

## 最優秀賞



## 私の母

鹿沼市立東中学校3年 石田 真愛

「まいちゃんのママって日本人じゃないんだ。」一言でした。小学5年生のとき、友達に言われたその一言で、私がずっと母に感じていた違和感が確かなものになりました。その言葉は今でもはっきりと覚えています。

私の母は中国人です。だから日本での常識を知りません。例えば、赤信号なのに車が来ないからと言って信号を無視して渡ってしまったり、電車の中で他の乗客がいるのにも関わらず、大きい声で電話をしたり。「日本人ならば絶対にそんなことはしない。」と気が付いたのは小学3年生でした。母が「非常識な中国人」だと思われたくなくて、学校での行事や集まりがあるたびに、父に「学校に来てほしい。」と頼んでいました。しかし、「バレたくない。」という私の思いは届かず、その友達から情報が広がっていき、いつの間にか、私の母が中国人であることはみんなに知られてしまいました。毎日「中国語喋ってよ。」と面白半分で行われました。「なんで?なんで、なんで、なんで!?親が外国人ってそんなに面白い?」知らない人に話しかけられることが苦手だった私は、興味本位で話しかけてくる人も苦手でした。そんな日常が嫌になりました。「こうなったのは母が中国人のせいだ。」と決めつけ、母がどんどん嫌いになりました。「母が日本人だったら。」と考えるようになり、「嫌い」という負の感情と比例して、母との会話が少なくなりました。そして中学1年生になる頃には「ただいま」も「おかえり」も言わなくなっていました。

しかし、中学生になって最初の部活動のときでした。「私のお母さんは中国人だけど、私は中国語を話せないのでもっと勉強して、母と中国語で話せるようになりたいです。」中国、母、勉強した。自分と同じ学年で同じ部活動に所属していて、背格好も同じくらいの目の前の女の子の自己紹介の内容に驚きを隠せませんでした。「同じだ。」と思いました。しかし、一つ、決定的に違うことがありました。彼女は自分の母をととても尊敬していたのです。それに比べて私は、中国語を話せるのに、そのことを「恥ずかしい」と思い、

自分の個性を否定し、自分の心を閉ざしていました。中国語を勉強したいという人もたくさんいるのに、中国語を話せる私はどんなに恵まれているかということに気が付きました。その瞬間、自分に対して猛烈な怒りを感じました。「母が外国人だっていいじゃないか。」何人であろうと私の母であることに違いはありません。ただ私は母を認めようとしませんでした。あの友達の一言で、私は何も受け入れない、理解しようとしらない人間になっていたのです。

少しずつ母との会話が増え、以前のような明るい家族に戻り始めたとき、新型コロナウイルスが世界中に広がっていました。コロナウイルスについてのテレビの報道を目にするたびに「日本って緩いんじゃないの。中国なんて14億人も人がいるのに最近、感染者は更新してないよ。」と言います。確かに、中国の完璧な感染対策はとても尊敬します。だからと言って日本のやり方が間違っているとは思いません。もし、小学5年生の私が母のこの言葉を聞いていたら、きっと強く反発したと思います。ところが今は、母の言葉を冷静に受けとめ、両方の立ち場に立って考えるようになったのです。そのことに気が付き、自分の将来について考えるようになりました。

グローバル化が進む今、「通訳とかがいいと思うな。」と、よく母に言われます。しかし、グローバル化と同じくらい情報化も進んでいます。通訳もAIが行う時代です。そこで私は「AIを造る側になればいいのではないか。」と、思いました。自分のようにそれぞれの国の人々の思いを理解し、伝えることができる、温かみのあるAIの開発に携わり、私は日本と世界をつなぐかけ橋になります。AIをローマ字読みすると「アイ」となるように、私は「アイ」のあるAIを造ります。

母を恥ずかしいと思っていた私はもういません。今、ここにいるのは、母を心から尊敬し、過去の出来事を未来につなぐ石田真愛です。

## 「心豊かな青少年を育む県民のつどい」

「心豊かな青少年を育む県民のつどい」は、明日のとちぎを担う青少年が、夢と希望を持って心豊かでたくましく成長できるよう、家庭、学校、職場、地域などが相互に連携・協力をはかりながら、県民総ぐるみで青少年の健全育成を推進していく、その意識を高めることを目的に開催しています。今年、11月16日(火)に栃木県総合文化センターメインホールにて開催されました。

第1部は、関係者のみで令和3年度栃木県青少年健全育成成功労者等表彰式を行いました。第2部は、感染対策をして2年ぶりに観客を入れて開催しました。当日は、約300の方が参加されました。開会行事の後、第71回“社会を明るくする運動”作文コンテストで栃木県推進委員会委員長賞を受賞した栃木市立吹上中学校2年大塚伸吾さん(題名「出所者の更正を支える」)による作文朗読と、第44回少年の主張県大会最優秀賞を受賞した鹿沼市立東中学校3年石田真愛さんの主張(題名「私の母」)発表がありました。



大塚さんは、新聞記事により出所者を採用する企業が自宅近くにあることを知り、矯正展で感じたことや学校での経験を踏まえ、自分の罪を償い反省した人たちを信じることで、その人たちを温かく受け入れる施設を増やすことが明るい社会を作る第一歩と捉え、そのためにまずは地域のひととの挨拶により人と人とのつながりを作るなど自分にできることから取り組みたいと決意を語りました。

石田さんは、中国人である母親への反発と和解を通して相手を理解することの大切さを知り、自分の将来の夢として、様々な国の人々の思いを理解し伝えることができる温かみのあるAI(人工知能)の開発の携わり、日本と世界をつなぐ架け橋になりたいと力強く述べました。

続いて東京石灰工業株式会社の代表取締役社長である菊池宏行氏が「SDGs社会における若い世代との相互投資関係」と題し講演を行いました。菊池氏は、SDGs(持続可能な開発目標)社会を実現するために、それを担う若い世代の人たちに期待することを3点述べられました。1点目は、一人で考える時間を大切にすることです。一人で沈黙考したり本を読んだりする時間を意図的に作らないと充実した人生は難しいと話されました。2点目は、知識は力であり、自分で知識を得る努力をすべきということです。すぐに答えを求めるのではなく答えを出す過程を楽しむこと、ネットの知識はあくまで他人の知識でありそれを自分の知識と分かったような気になっているのは危険であることを理解してほしいということでした。そして3点目は、共感と団結が重要であるということです。世代ごと一括りにするのではなく、人と人とのつながりをもとに、お互いを理解し尊重し合いながらコミュニケーションをとることが大切であると主張されました。そして本県の未来を担う青少年を育成するためには、共感・理解をしながら団結する社会を形成していくことが重要と述べられました。



その後、栃木県警察音楽隊の演奏会が行われました。「ドライフラワー」(優里)や「夜に駆ける」(YOASOBI)といったなじみの曲から「山口百恵ヒットメドレー」などの懐かしい曲や映画音楽などの演奏が披露されました。観客の方々は、音楽隊の素晴らしい演奏とカラーガード隊の華麗なパフォーマンスにすっかり魅了されていました。

## 令和3年度栃木県青少年育成県民会議表彰

令和3年度の青少年育成県民会議表彰は、11月16日(火)に栃木県総合文化センターで開催した「心豊かな青少年を育む県民のつどい」の中で「令和3年度栃木県青少年健全育成功労者等表彰式」として、栃木県青少年健全育成表彰、「家庭の日」絵日記コンテスト入賞者表彰とともに執り行いました。

栃木県青少年育成県民会議表彰は、明日の栃木県を担う青少年の健全育成を促進するため、「とちぎの子ども育成憲章」の理念に沿った活動を展開し、青少年の育成に功績のあった、個人、団体及び社会貢献青少年、優良青少年団体を表彰するものです。今年は、以下の方々が表彰されました(五十音順、敬称略)。

### 子ども育成・憲章功労者

荒川 昌平	伊澤 幹男	岩田 博文	采澤 良俊	小川 一男	春日 武之
亀井 丈彦	川嶋 浩	國井 淑子	小池恵一郎	佐藤 重敏	戸邊 三男
永島 茂夫	永野 重三				
成行 恵子	野村 馨子				
氷室 淳子	星野 孝				
松濤 孝佳	室 正倫				
森 実樹	森田 義治				
八木澤享一	山崎 智雄				
渡辺 昌博					



### 子ども育成・憲章功労団体

社会福祉法人 絆の会	白沢駐在所管内防犯パトロール隊
長沼小学校スクールガード	東小学校図書館ボランティア「おひさま」
藤井かんぴょう音頭保存会	やばっこ
陽光地区まちづくり推進協議会安全・安心部会	

### 社会貢献青少年

水洞 亮太	花本 凜香
丸山 桃香	

### 優良青少年団体

下野ジュニアリーダースクラブ  
 栃木県立国分寺特別支援学校  
 豊郷リーダースクラブ



## 特集「栃木県青少年育成県民会議表彰」優良青少年団体の紹介 ～栃木県立国分寺特別支援学校 地域への貢献活動～

本校は、昭和58年4月開校の知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校です。下野市・小山市・上三川町・野木町の2市2町を通学圏とし、小学部100名、中学部65名、高等部100名の合計265名の児童生徒が在籍しています。

下野市と小山市の境に立地し、南には、お菓子メーカー等の工場が建ち並び、時折、チョコレートの香ばしい香りが風に乗って感じられ、西には、渡り鳥も飛来する大沼公園がある自然豊かな環境で日々学習に取り組んでいます。

今回は、中学部と高等部の合同クリーン活動と高等部作業班\*（サービス班）による地域への貢献活動を紹介します。

学校近隣のクリーン活動は、中学部と高等部の合同で長年行ってきました。居住地域別に生徒を縦割り18のグループに分け、学校近隣を高等部生がリーダーとなって中学部生と一緒にグループで協力して清掃活動を行います。普段、関わり合うことがない年齢差のある生徒同士ですが、同じ地区に住んでいることもあり、高等部生は「そこにゴミあるよ。」「危ないからそっち行っちゃだめだよ。」などと優しく声をかけてあげています。他方、中学部の生徒は、普段関わることの少ない高等部のお兄さん、お姉さんから関わってもらおうと、教師が関わる時よりもスムーズに活動に移れたり、普段手をつながないような生徒も高等部のお兄さんお姉さんと一緒に手をつないで歩くなどの様子も見られ、子ども同士のよい学び合いの活動として定着しています。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策上、衛生面から中学部と高等部の合同の校外でのクリーン活動は行わず、校内清掃をグループ毎に行うなどに形を変えて行いました。

次に、高等部のサービス班による地域のクリーン活動や除草等の地域貢献活動を紹介します。本校には約20名の生徒がJR宇都宮線の小金井駅を利用して通学しています。毎日通う駅前や通学路を清掃し、地域の役に立とう、自分たちのことを地域の人にも知ってもらおうという思いで地域への貢献活動を開始しました。

サービス班では高等部の生徒15名が作業学習の時間に活動を行い、駐輪場の職員の方や通り沿いの病院の院長先生、自治会長さんなどから感謝の言葉をかけていただきました。時間の都合で、すべてをきれいに終えることはできなかったのですが、「また来てやりたい。」など前向きな声が生徒から出されました。他にも、近隣のバス停周辺や道路の清掃、落ち葉掃きなどを行うことができました。

コロナだからこそ、大きな人数でできない少人数での活動を考え、実践する契機となりました。今後は、コロナが収束することを願いながら、合同でのクリーン活動と高等部作業班による地域への貢献活動を併せた活動などを展開し、継続し続けたいと思います。

栃木県立国分寺特別支援学校 高等部主事 鈴木 智洋 氏 寄稿



\*高等部では火木に作業学習の時間を設定し、1年生から3年生を縦割りの木工・縫製・農業・紙工・軽作業・サービスの6つの作業班に分けて働くために必要な学習を行っています。



とちぎ心のスクラム県民運動

毎月第3日曜日は

# 2021家庭の日 絵日記コンテスト結果



ふれあい育む「家庭の日」を広報・啓発し、県民総ぐるみで青少年の育成に取り組むために、家族のふれあいや思い出等をテーマに2021「家庭の日」絵日記コンテストを実施しました。今回は1,331点の応募がありました。いずれも子どもたちの家族への感謝や家族を大切に思うやさしさにあふれ、心温まる作品ばかりでした。たくさん作品をご応募いただきありがとうございます。

入賞作品13点は(公財)とちぎ未来づくり財団ホームページにも掲載されておりますのでぜひご覧ください。(http://www.tmf.or.jp/r3contest.html)

## 最優秀賞

認定こども園愛泉幼稚園  
若林 和希さん  
「ともくん」

## 優秀賞



小山市立小山城北小学校  
佐々木 結乃さん  
「ねる前のたのしみ」

## 優秀賞



下野市立薬師寺小学校  
関 一之助さん  
「かぞくがふえる日」

優良賞



宇都宮市立上河内中央小学校  
葭葉 海寧さん  
「かぞくのぎょうぞ」



下野市立薬師寺小学校  
小田原 あずみさん  
「おとうさん」



鹿沼市立加園小学校  
齋藤 絢音さん  
「二人のやくそく」



佐野市立天伏小学校  
大澤 由緒さん  
「きゅーっとしてここにこい。」



栃木市立吹上小学校  
宇賀神 星さん  
「庭で泡プール」



下野市立緑小学校  
鈴木 佑菜さん  
「昔の写真」



下野市立薬師寺小学校  
小田原 昊杜さん  
「ねかしつけ」



宇都宮大学共同教育学部附属小学校  
内田 真維さん  
「金メダルの夏」



壬生町立睦小学校  
鈴木 姫歌さん  
「大好きなおじいちゃん」



下野市立緑小学校  
鈴木 絢心さん  
「私の家族」

## ご寄附いただきました

### 菊池宏行氏(東京石灰工業㈱代表取締役社長)

当財団の評議員を務める東京石灰工業株式会社及び佐野ガス株式会社の代表取締役社長である菊池宏行氏が、50万円を栃木県青少年育成県民会議へ寄附し、令和3年12月10日(金)に栃木県庁において寄附金ならびに感謝状の贈呈式が行われました。

菊池社長には“青少年の健全育成に役立ててほしい”という思いから毎年ご寄附いただいております。今回で12年目になります。

当日は、菊池社長から寄附金の目録が県民会議会長の福田富一知事に手渡され、会長からは感謝状が贈呈されました。



### 栃木県更生保護女性連盟

令和4年1月14日(金)に栃木県更生保護女性連盟から「愛の募金」をご寄附いただきました。栃木県更生保護女性連盟の皆様方からのご支援は、少年の主張発表大会をはじめとした青少年健全育成事業で活用させていただいております。

また、栃木県更生保護女性連盟からは「栃木県少年の主張発表県大会」出場者に対する記念品として、長年にわたり図書カードをご提供いただいております。今年度はコロナ禍のため贈呈式は行わず、9月18日(土)に栃木県総合文化センターで行われた県大会に出場した生徒に記念品を渡しました。



## ■ 栃木県青少年育成県民会議からのお知らせ

栃木県青少年育成県民会議では広く  
「県民総ぐるみで健全なとちぎの青少年を育むために」

### 賛助会員を募集しています

明日の“とちぎ”を担う青少年が、夢と希望を持って心豊かでたくましく成長することは、県民全ての願いです。

栃木県青少年育成県民会議では、「とちぎ心のスクラム県民運動」の主唱者として、次代の栃木県を担う青少年の健全な育成を目的とし、様々な事業を展開しています。

現在多くの賛助会員の皆様から会費をお預かりして、活動経費に充てさせていただいておりますが、より充実した活動の推進のために、更なるご支援が必要となっております。

つきましては、栃木県の青少年の健全育成のために、多くの県民の皆さまに趣旨をご理解いただき、賛助会員としてお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和4年3月

栃木県青少年育成県民会議 理事長 森 澤 隆

賛助会員数 (令和4年1月現在)	個人	241人
	団体	172団体
賛助会費	団体 (1口)	10,000円
	個人 (1口)	3,000円

■ 加入いただける場合は、<http://www.tmf.or.jp/youth.html>から、「賛助会員加入申込書」をダウンロードしてお申し込みください。

### 栃木県青少年育成県民会議賛助会員(団体)のご紹介

団体会員(50音順・敬称略)

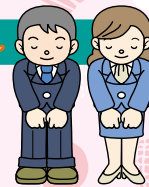
令和4年1月現在 172団体

※個人情報保護のため個人会員の方々は掲載を控えさせていただきます。

- 足利小山信用金庫
- 足利市更生保護女性会
- 一般財団法人 栃木県青年会館
- 一般社団法人 ガールスカウト栃木県連盟
- 一般社団法人 栃木県医薬品登録販売者協会
- 一般社団法人 栃木県銀行協会
- 一般社団法人 栃木県経営者協会
- 一般社団法人 栃木県子ども会連合会
- 一般社団法人 栃木県歯科医師会
- 一般社団法人 栃木県商工会議所連合会
- 一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
- 一般財団法人 栃木県連合教育会
- 一般社団法人 栃木県老人福祉施設協議会
- 茨城寺岡オート・ドア株式会社
- 医療法人社団 友志会
- 宇都宮更生保護女性会
- 宇都宮西ライオンズクラブ
- 宇都宮文化センター株式会社
- 栄研化学(株)那須事業所
- 栄研化学(株)野木事業所
- 王冠ボウル
- 株式会社 暁恒産
- 株式会社 足利銀行 人事部
- 株式会社 アメザワ
- 株式会社 井上総合印刷
- 株式会社 エフエム栃木
- 株式会社 オヤマ
- 株式会社 小山
- 株式会社 小山商会 筑波営業所
- 株式会社 島崎酒造
- 株式会社 清水造園
- 株式会社 下野新聞社(経営管理局 総務部)
- 株式会社 新成エンジニアリング
- 株式会社 太陽警備保障
- 株式会社 大高商事
- 株式会社 高津製作所
- 株式会社 ガスキンニューアイドル
- 株式会社 栃木銀行 人事部
- 株式会社 とちぎテレビ
- 株式会社 栃木ファミリー
- 株式会社 栃木放送
- 中村技研 株式会社
- 株式会社 プレーン
- 株式会社 本田技術研究所 統括機能本部  
人事企画推進室 庶務・渉外ブロック
- 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷
- 株式会社 ユーテック
- 環境整備 株式会社
- 菊地歯車 株式会社
- 公益財団法人 産業雇用安定センター
- 公益財団法人 栃木県スポーツ協会
- 公益財団法人 栃木県農業振興公社
- 公益財団法人 栃木県ひとり親家庭福祉連合会
- 公益財団法人 栃木県保健衛生事業団
- 公益財団法人 日本ボーイスカウト栃木連盟
- 公益社団法人 栃木県看護協会
- 公益社団法人 栃木県獣医師会
- 公益社団法人 栃木県食品衛生協会

- 公益社団法人 栃木県経済同友会
- 公益社団法人 栃木県防犯協会
- 佐野ガス 株式会社
- 佐野信用金庫
- 佐野地区金融団
- 下野印刷 株式会社
- 下野市議会
- 社会福祉法人 栃木県社会福祉協議会
- 社会福祉法人 蓬愛会
- 鈴運メンテック 株式会社
- 鈴木印刷 株式会社
- 住販 株式会社
- 滝沢ハム 株式会社
- 「小さな親切」運動栃木県本部
- 地方独立行政法人 新小山市市民病院
- 中央労働金庫 栃木県本部
- 都賀総合開発 株式会社
- 東亜警備保障 株式会社
- 東京石灰工業 株式会社
- 東石建設 株式会社
- 東石リース 株式会社
- 栃木県PTA連合会
- 栃木県アミューズメント施設営業者協会
- 栃木県医師会
- 栃木県開拓農業協同組合
- 栃木県空手道連盟
- 栃木県弓道連盟
- 栃木県建設産業団体連合会
- 栃木県剣道連盟
- 栃木県興行生活衛生同業組合
- 栃木県公共図書館協会
- 栃木県更生保護女性連盟
- 栃木県高等学校PTA連合会
- 栃木県高等学校体育連盟
- 栃木県高等学校長会
- 栃木県公民館連絡協議会
- 栃木県古書籍商組合
- 栃木県コミュニティ協会
- 栃木県済生会宇都宮病院
- 栃木県山岳・スポーツクライミング連盟
- 栃木県市議会議長会
- 栃木県肢体不自由児者父母の会連合会
- 栃木県市長会
- 栃木県市町村教育委員会連合会
- 栃木県社会教育委員協議会
- 栃木県射的協会
- 栃木県柔道連盟
- 栃木県小学校長会
- 栃木県商工会女性部連合会
- 栃木県商工会青年部連合会
- 栃木県商工会連合会
- 栃木県職場警察連絡協議会
- 栃木県女性団体連絡協議会
- 栃木県書店商業組合
- 栃木県私立中学高等学校連合会
- 栃木県神社庁
- 栃木県信用金庫協会
- 栃木県信用保証協会

皆様からの温かい  
ご支援に感謝  
申し上げます。



- 栃木県青少年育成アドバイザー会
- 栃木県青少年育成指導員会
- 栃木県青少年クラブ協議会
- 栃木県青少年指導員会連絡協議会
- 栃木県青少年団体連絡協議会
- 栃木県ソフトテニス連盟
- 栃木県ソフトボール協会
- 栃木県卓球連盟
- 栃木県たばこ販売協同組合連合会
- 栃木県地域婦人連絡協議会
- 栃木県中学校体育連盟
- 栃木県中学校長会
- 栃木県中小企業団体中央会
- 栃木県町村会
- 栃木県町村議会議長会
- 栃木県農業協同組合中央会
- 栃木県バドミントン協会
- 栃木県ハンドボール協会
- 栃木県美容業生活衛生同業組合
- 栃木県保護司会連合会
- 栃木県民生委員児童委員協議会
- 栃木県薬事工業会
- 栃木県遊技業協同組合
- 栃木県ユネスコ連絡協議会
- 栃木県ラグビーフットボール協会
- 栃木県理容生活衛生同業組合
- 栃木県林業振興協会
- 栃木県レクリエーション協会
- 栃木県連合青年団
- 栃木県労働者福祉協議会
- 栃木子どもの本連絡会
- 栃木市更生保護女性会
- 栃木市青少年問題協議会
- 栃木商工会議所
- 栃木たばこの会
- 獨協医科大学病院
- トヨタカローラ栃木 株式会社
- 那珂川町更生保護女性会
- 那須烏山市更生保護女性会
- 那須塩原市黒磯地区更生保護女性会
- 那須南農業協同組合
- 芳賀赤十字病院
- はが野農業協同組合
- 芳賀町工業団地連絡協議会
- 平石環境システム 株式会社
- 藤井産業 株式会社
- 平成アルミ 株式会社
- 平成理研 株式会社
- 水戸通信工業 株式会社
- 有限会社 荒井モーターズ
- 有限会社 岩井自動車商会
- 有限会社 正栄社印刷所
- 有限会社 高久燃料店
- 有限会社 那須クリーンセンター
- ユーレストジャパン 株式会社
- ライオンズクラブ国際協会333-B地区